

Olympic  
Movement

<平成28年度 ハローオリンピズム事業>

# オリンピック教室

実施報告書

湯沢市立皆瀬中学校



公益財団法人日本オリンピック委員会



現行の学習指導要領は平成21年（2009）4月に公示され、中学校「保健体育 体育分野」及び高等学校「科目 体育」における「体育理論」の領域で、文化としてのスポーツやオリンピック・ムーブメントの意義を学ぶことが明確化されました。そこには、中学校3年生の保健体育の「体育理論」の学習内容に、「オリンピックや他の国際的なスポーツ大会等は、国際親善や世界平和に大きな役割を果たしていること」とオリンピックの意義が明示されております。

これを受けて日本オリンピック委員会（JOC）では、平成23年度（2011）から、体育理論の学習に先がけ、その内容を事前に啓発する目的で中学校2年生を対象に、「ハローオリンピズム事業」の一つとして、授業形式で行う「オリンピック教室」を実施しております。

近代オリンピックの創始者ピエールド・クーベルタンは、人間本来の資質を高めるために、スポーツと文化と教育の側面を持つオリンピックの価値を広めることが相応しいと考え、オリンピック・ムーブメントを推進してきました。JOCもこの価値を若い世代に語り継ぐことは、極めて重要で大切な活動と考えております。日本代表として実際にオリンピックに出場した選手（オリンピック）は、その栄誉を自覚し、競技面だけでなく社会生活の上でも、模範となる行動が求められております。このようなオリンピックがその価値を直接生徒に伝えることで、日頃の授業では味わうことの出来ない感動が生まれることも期待しております。

「オリンピック教室」の授業は、教師役のオリンピックが、オリンピック大会出場に至るまで、あるいは、実際にオリンピック大会に出場して得た貴重な経験等を通して、「エクセレンス」、「フレンドシップ」、「リスペクト」、「努力から得られる喜び」、「フェアプレー」、「他者への敬意」といったオリンピックの価値（バリュー）及びオリンピック精神の教育的価値等を伝えます。また同時に、この価値がオリンピックに出場した選手だけのものではなく、多くの人々が共有し日常生活にも活かすことのできるものであること、さらに、こうした考え方があるからこそオリンピックに価値があることを生徒自身に学習してもらうこともねらいとしております。

平成23年に施行された「スポーツ基本法」の前文の一部に「スポーツは、世界共通の人類の文化であり、次代を担う青少年の体力を向上させるとともに、他者を尊重しこれと協同する精神、公正さと規律を尊ぶ態度や克己心を培い実践的な思考力や判断力を育む等人格の形成に大きな影響を及ぼすものである」との記述があります。生徒のみなさんが「オリンピック教室」で学習する内容は、まさにこの基本法に記された精神や態度等を日常生活の中へ具現化することを後押しするものであると考えています。

- 実施目的** : オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート）が教師役となり、オリンピアン自身の様々な経験を通して「オリンピズム」や「オリンピックの価値」等を伝えると同時に、この価値はオリンピアンだけのものではなく、多くの人々が共有し、日常生活にも活かすことの出来るものであることを授業を通して学習してもらう
- 名称** : JOCオリンピック教室
- 主催** : 公益財団法人 日本オリンピック委員会
- 後援** : スポーツ庁
- 協力** : 公益財団法人JKA、開催地自治体及び同教育委員会
- 対象** : 中学2年生
- 講師** : オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート）  
※派遣オリンピアンはJOC側にて選定
- 期間** : 平成28年4月～平成29年3月 ※原則、平日開催
- 実施校数** : 40校程度
- 実施方法** : クラス単位を基本とし、2コマで1セットの授業

1時限目  
運動の時間（50分）



2時限目  
座学の時間（50分）



※学校の通常の授業時間をベースに実施  
※運動の時間と座学の時間の間に10分の休憩時間があります

## 1時限目

### 運動の時間

オリンピックの専門競技の技術指導（＝スポーツ教室）ではなく、運動が苦手な生徒も参加できるように工夫されたもの

#### 挨拶（5分）

#### 準備運動（10分）

#### 主運動（30分）

#### まとめ（5分）



自己紹介  
今日の学習内容の確認



準備運動



主運動  
(作戦タイム等を設け、  
生徒が考える機会を作る)



運動の授業のまとめ

※時間は目安です

※内容はオリンピックによって多少変動する場合がございます

## 2時限目

国際オリンピック委員会（IOC）が推進する「オリンピックの価値」等を、オリンピックがオリンピック競技大会出場に至るまで、あるいは実際にオリンピック競技大会に出場した経験等を通して、分かり易く伝えると同時に、生徒自身が自分ごととして捉え、今後活かせるような学習内容

### 座学の時間

#### 挨拶・自己紹介（10分）

#### オリンピックの価値を伝える（10分）

#### グループワーク（20分）

#### まとめ（10分）



学習内容の確認



写真・映像等を使用した自己紹介



オリンピック自身の経験に基づく「オリンピックの価値」等を伝える



グループ（個人）ワーク  
話し合った内容を発表



全体のまとめ/記念撮影

※時間は目安です

※内容はオリンピックによって多少変動する場合がございます



- 期 日 : 平成28年5月24日 (火)
- 場 所 : 湯沢市立皆瀬中学校
- ク ラ ス : 2年 (8名) ※3学年 (50名) 合同で実施
- オリンピック : 多治見 麻子 先生 (バレーボール)
- 授業のながれ : 運動の時間 (1時限)

1. 自己紹介～授業の目的確認



- ・多治見先生から簡単に自己紹介をした後、パネルを用いてオリンピックシンボルについて説明。
- ・バレーボール競技について紹介し、運動の時間ではバレーボールを使って体を動かし、座学の時間ではオリンピックについて知ろうと授業の目的を確認。

2. 準備体操



- ・両手間隔に広がって準備体操をした後、2人組になって片手をつなぎ、空いている手で相手の足にタッチする。相手からはタッチされないように逃げる。



### 3. 主運動



#### ボールパス回し（全3回戦）

- ・始めに2人組になってオーバーハンドパス、アンダーハンドパスを練習。
- ・6班に分かれて円陣パスを実施。連続してパスできた回数を数える。
- ・各回終了後に作戦タイムを設け、回数を増やすための工夫を班ごとに話し合う。

### 4. まとめ



- ・回数を増やすために仲間同士協力できていたことに触れ、チームワークを感じられたのではないかと話す。
- ・次の座学の時間ではオリンピックについての話をする予告し、運動の時間に感じた事、思ったことを忘れずに教室に戻るよう伝える。
- ・最後に各班から1名ずつ代表者が前に出て、多治見先生のスパイクをレシーブするデモンストレーションを実施し、授業終了。



■ 授業のながれ： 座学の時間（2時限）

1. 自己紹介（映像、写真 etc）と授業の目的を確認



・座学の時間ではオリンピックについて知ろうと授業の目的を確認し、オリンピックのイメージを問いかける。

2. オリンピックの価値を伝える



・よりよい人生を生きるための価値観としてオリンピックバリューを紹介。エクセレンスはベストを尽くしがんばること、目標に向かって努力することと説明し、結果だけでなく目標に向かう過程が大切だと話す。フレンドシップは、互いを理解し合い仲間になること、チームワーク、リスペクトはフェアプレー、感謝の気持ちと説明。  
 ・競技を始めたきっかけや、オリンピック競技大会出場についての経験を通してバリューについて説明し、3つのバリューはみんなの生活の中にもあると伝える。



### 3. グループワーク



発問：自身の日常生活に活かせるオリンピックバリューについて考えてみよう。

発表：エクセレンス＝優勝を目指して部活動がんばる、目標に向かって全力で努力する

フレンドシップ＝同じ目標に向かって一緒にがんばる、声を掛け合って励ましあう

リスペクト＝支えてくれる仲間や両親、地域の人へ感謝する

### 4. まとめ



・多治見先生は競技を始めた時は上手ではなかったけれど、日々努力してオリンピックに出場できたことは自分にとって財産になった。夢や目標に向かって努力することは人生を豊かにするので、みんなもオリンピックバリューを意識して実践してほしいと伝える。

・リオデジャネイロオリンピックや東京2020大会の開催に触れ、スポーツは「する、見る、支える」という様々な立場から関わることができること、2020年以降もスポーツを身近に感じて接してほしいことを伝え、授業終了。





■ 集 合 写 真



■ 記 念 品 贈 呈



■ 証 明 書 贈 呈

